

第169回 令和8年2月4日（水）

「待たせることについて。」

ビジネスにおいて「相手を待たせること」は厳禁です。時間は限りある資源であり、待たされる側にとってその間にできるはずの活動や計画が阻害されます。時間に対する価値観は人それぞれですが、相手の時間を尊重することは社会の基本マナーです。

待っている間に自分の予定が狂うと不満が生じます。また「待ちぼうけ」というシチュエーションは孤立感を味わう可能性があります。さらに頻繁に相手を待たせると「約束を守らない人」「信用がおけない」という印象を与え、信頼関係が損なわれます。

ビジネスの場では特に時間厳守が求められるため、待たせることで相手側のスケジュールや業務効率を妨げることとなります。待たせることが失礼となる主な理由は「相手の時間を奪う」ことです。

待たされる時間は本来重要な作業を行っていた可能性のある時間です。ほかのことにその時間を使えれば巨額の契約が結べたかもしれません。

待たせる行為は「約束した時間に来る」という社会的な期待を裏切る行為であり、相手に敬意を示していないと解釈される場合があります。たとえ親しい間柄であっても、相手を待たせる行為が続けば関係性に悪影響を与えます。理由は様々あると思いますが相手が「こちらを軽く見ている」と誤解する場合もあります。

待たせないためには、時間を厳密に管理する姿勢が大切です。そのためには事前準備を怠らないことや、移動時間やトラブルの可能性を考慮し、余裕をもった行動をすることなどがあげられます。いずれも当たり前のマナーです。

どうしても遅刻や待たせる可能性がある場合には、早めに連絡して相手に事情を伝えることも大事です。連絡することで、相手に新たな予定を立てる余地を与えられます。

待たせる場合には、相手が待ちやすい環境を提供するのも一つの方法です（快適な待ち場所の確保や必要な情報の提供など）。

遅れた場合には真摯に謝罪します。「5分くらいいいだろう」と思うのは自分本位の解釈です。あなたにとっての5分と相手の5分では価値観がまったく異なるかもしれません。

地上に出たら1週間しか生きられないセミにとっての5分と人間の5分はまったく違いますよね。

時間の価値は一人ひとり違います。そして時間はお金では弁償できません。

遅れることに罪悪感がない人がいますが、一流の人は遅刻を絶対に許しません。表面上は笑っていても信用を一気に失ってしまうことを覚えておいてください。